

みんな
の
文化財



修理の完成した妙義神社

群馬県教育委員会

はじめに

群馬県教育委員会

教育長 千吉良 覚

人間が、他の動物と異なるのは、火をはじめとして、道具をつくり、つかうという生活技術を習得しており、さらには言葉という優れた情報伝達的手段をもっているというところにあるといわれています。人間は、これらの特性を発揮し、少しずつ「良く生きる」ための知恵を自分のものにして、現在のように他の動物とはまったくことなる生活を営むようになりました。

このようにして、人間がつくりだし、育ててきた生活活動のいろいろな現象を「文化」とよんでいます。「人間は文化をもつ動物」といわれるところでもあります。人間は前の時代までにつくられた文化を学び、それを改良して、常に新しい文化をきずいてきました。

各々の時代、時代が生みだした文化の中には、時代の荒波をのりこえてもたらされる、すぐれた文化があります。それが「文化財」です。

昔の賢人が『温故知新』と表現したように、すぐれた文化財は私達に様々な指針をあたえてくれます。これを現代人が勝手に捨て去ったり、破壊したりしては、次の時代の人々に本当に恥ずかしいことです。

この『みんなの文化財』は、小さなパンフレットですが、最近、保護のための修理や整備の行なわれた文化財を紹介してあります。時代を写す歴史の証人タイムカプセルといわれる文化財を、みなさんが楽しく学習し、これからの文化創造に生かしていただけることを、心から願っております。

平成元年3月

◇ 写真提供 (順不同・敬称略)

上毛新聞社

明治大学

群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市教育委員会

太田市教育委員会

赤城村教育委員会

箕郷町教育委員会

千代田町教育委員会

松本十徳

目 次

はじめに	1
目 次	3
この本の利用にあたって	4
（史跡1）岩宿遺跡	5
（ 〃 2）縄文時代の住居	6
（ 〃 3）前方後円墳	7
（ 〃 4）国分寺	8
（ 〃 5）戦国の城跡	9
（ 〃 6）茶屋本陣	10
（考古1）千網谷戸の出土品	11
（ 〃 2）観音塚古墳の出土品	12
（ 〃 3）塚廻り古墳出土の埴輪	13
（美工1）了戒の太刀	14
（ 〃 2）頂相	15
（ 〃 3）南蛮絵	16
（ 〃 4）仏像	17
（建造物1）黒沢家住宅	19
（ 〃 2）雷電神社	20
（ 〃 3）長楽寺	21
（ 〃 4）桐生明治館	22
（民俗）民俗文化財	23
（天然）樹木の保護	24
埋蔵文化財の保護	25

この本の利用にあたって

群馬県には、下記の一覧表に示すとおり、国や県の指定を受けている文化財がたくさんあります。

本書では、最近、修理や整備がおこなわれた文化財をとりあげてありますので、個人的にも、また、団体でも、出かけてみてください。……「百聞は一見にしかず」です。

群馬県の指定文化財

(平成元年3月1日現在)

種 別	内 容	国指定	県指定	合 計
重 要 文 化 財	建造物・絵画・彫刻・工芸品・書跡・考古資料など	42	164	206
重要無形文化財	人間国宝など技術、技能	1	2	3
民 俗 文 化 財	生活用具、民俗芸能、伝統行事など	2	11	13
史 跡	古墳・遺跡地・城跡など	33	80	113
名勝・天然記念物	景勝地・動物・植物・地質鉱物など	23	81	104
(合 計)		101	338	439

●旧石器の発見………岩宿遺跡

- 名 称：岩宿遺跡
- 指 定：国指定史跡
- 所在地：笠懸村阿左美
- 整 備：平成元年完了



●昭和24年の発掘風景

岩宿遺跡発見の意義は、日本列島にも縄文時代以前の文化が存在したことを明らかにしたこと、つまり、縄文時代以前にも人間が住んでいたという証明をしたことにあります。

まだ戦後混乱期の中で、このように、日本の歴史を書きかえることになる大発見をしたのは、アマチュアの考古探求者、相沢忠洋さんでした。相沢さんの最初の発見から3年後の昭和

24（1949）年には、発掘調査によってこの発見が正しいことが確認され、世間の人々に大きな感動を与えました。

現在では、岩宿遺跡全体が公有化されて保護され、岩宿文化の存在した時代をだれにも理解されるように地層断面を展示するなど、史跡公園として整備してあります。



●整備の進む岩宿遺跡

●最古の家…………縄文時代の住居

- 名称：八木沢清水縄文時代住居跡
- 指定：県指定史跡
- 所在地：小野上村八木沢
- 整備：昭和60年度完了



●縄文時代の住居跡

小野子山が山地の険しさに変わっていこうとする山ふところのやや開けたところに、この遺跡はあります。

円形に掘りくぼめて床面とし、そこに柱穴があるという簡単な住居あとです。しかし、ここからはよりいと燃糸文がつけられた土器やほくへん剥片石器が発見され、縄文時代も草創期(今から7～8,000年も前)という極めて古い時代の遺跡であることがわかりました。

山間部にそんな古い時代に人が住みついていたということに疑問をもつ人がいるかも知れませんが、きれいな飲み水が近くにあり、獣や木の実の採れる森が周囲にあるというのは縄文時代の人々には快適だったのでしょう。



●縄文時代の住居づくり想像図

●豪族の権威……前方後円墳

- 名 称：上野綿貫^{わたなぬき}観音山古墳
- 指 定：国指定史跡
- 所在地：高崎市綿貫町
- 整 備：昭和56年度完了



●観音山古墳全景

観音山古墳は、墳丘長97mの前方後円墳で、全長12mほどの横穴式石室をもっています。墳丘、石室、周堀など全面的に保存整備がなされ、だれもが自由に訪れることのできる古墳公園になっています。

墳丘から発見された埴輪、石室から出土した装身具・武器・武具・馬具などの豊富な副葬品は、全国的にも類例の少ない貴重なものです。

いずれも、近くの県立歴史博物館に展示してあります。副葬品には、近畿の中央権力との関連や遠く大陸との交流さえも暗示する品物も含まれ、また、巨大な墳墓を築造させるなど、この地域の豪族が並々ならぬ勢力を持っていたことが想像されます。

整備された古墳としては、塚廻り古墳（太田市）、原前古墳（大泉町古海）などがあります。



●復元された石室内部

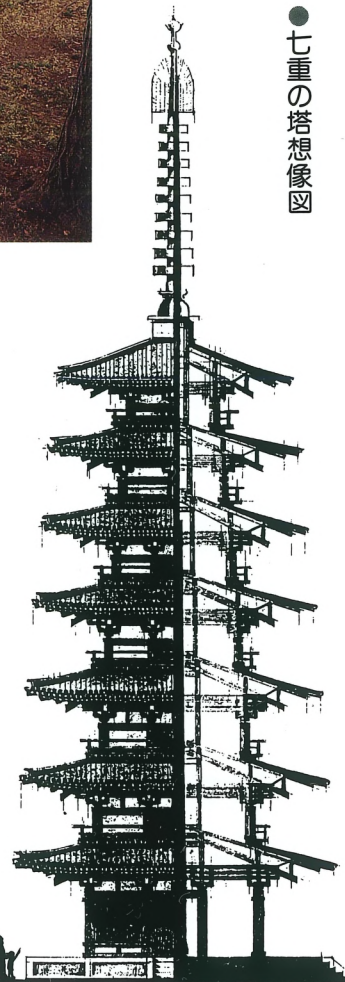
● 国家仏教の隆盛………国分寺

- 名称：上野国分寺跡
- 指定：国指定史跡
- 所在地：群馬町東国分ほか
- 整備：実施中



● 現在の塔跡

● 七重の塔想像図



天平13(741)年、聖武天皇は国ごとに国分寺を建立するよう詔みことりを発しました。

奈良の都を中心に、地方に国府を設置させ、律令制を徹底させる仕上げとして、国分寺を置かせようとしたのです。さらに、天平15年には「大仏造立の詔」を発し、大和国分寺としての東大寺に大仏を建立させ、全国の国分寺の中心としました。政治組織と一体の形で宗教組織を重ね合わせ、仏教による国家の安泰と繁栄を願ったものです。

このような中央政府の命令を受けて、上野国にも国分寺が造営されたのです。金堂を中心にして、塔・講堂・僧房からなる大寺院でした。現在、遺跡地を楽しく見学してもらえるよう、整備が進められております。

● 攻防のあと………戦国の城跡

- 名 称：箕輪城跡みのわ
- 指 定：国指定史跡
- 所在地：箕郷町西明屋
- 整 備：昭和58年度（第1次完了）



● 復元想像図

● 現在の城跡



国盗りの攻防が行われた戦国時代。上州には、北条・武田・上杉などの有力大名が相次いで侵略をくり返しました。このなかにあつて、西上州の勢力を結集して抵抗を続けたのが長野氏でした。その主城が箕輪城です。

箕輪城は、榛名山東麓の丘陵と白川による自然の要害を利用して構築され、南北900m、東西450m、約20haの面積を有する大城郭でした。御前曲輪・本丸・二の丸・三の丸などの各郭くわは、深くて大規模な堀で囲まれ、実戦に対応した戦国の城であることがわかります。

永禄9（1566）年、長野氏が滅ぼされて武田方の城となり、以後、北条、徳川と移った後、慶長3（1598）年に廃城とされました。

●江戸時代の旅……………茶屋本陣

- 名 称：五料の茶屋本陣
- 指 定：県指定史跡
- 所在地：松井田町五料
- 整 備：昭和59年度完了



●五料の茶屋本陣

五街道の一つ中山道は、倉賀野・新町・高崎・板鼻・安中・松井田・坂本と、上州では七つの宿駅を通過していました。宿駅には本陣・問屋・宿屋などがあり、旅人に便宜を与えていました。また、高崎と板鼻の間にある豊岡、松井田と坂本の間にある五料と横川には茶屋本陣がありました。

茶屋本陣は、喫茶・昼食などの休息所であり、本陣と同様に大名・幕府役人など貴人が利用しました。中山道が天下の幹道といわれた重要街道であった証拠です。茶屋本陣が設けられるのは土地の名主など有力農民の屋敷であるため、民家建築としても貴重なものです。

● 原始の造型……千網谷戸^{ちあみがいと}の出土品

- 名 称：上野千網谷戸遺跡出土品
- 指 定：国指定重要文化財
- 管 理：県立歴史博物館
- 修 理：昭和62年度完了



● 土製耳飾

縄文時代は、日本列島に住んでいた人々が、初めて土器を作り、使い始めた時代です。生活の基礎は、木の実を集め、魚や貝を取り、動物を狩る、といった食料の採集でした。

縄文時代の人々は、そのような生活のなかで、土偶・土面・土版・石棒・岩版など、彼らの精神生活をのぞかせてくれる不思議な形の品々を残しております。

桐生市川内町で発見された千網谷戸遺跡からは、縄文時代の人々が住んでいた竪穴住居とそこに残されていた多数の土製品・石製品・骨角器が出土しました。

なかでも目を引くのは、土で作った^{イヤリング}耳飾りや^{ペンダント}垂飾りです。これらは、身体を飾るアクセサリーですが、現代の私達が身につけるとはちがった、特別な意味があったような気がします。耳たぶに穴をあけてつけたと思われる耳飾りのなかには、直径が10cmをこえるようなものまであります。皆さんも、縄文人の不思議な造型の謎に挑戦してみませんか。

● 耳飾をつけた土偶



● 金属器の輝き………観音塚古墳の出土品

- 名 称：上野国八幡観音塚古墳出土品
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：高崎市観音塚考古資料館
- 修 理：昭和51年度完了



● 金銅製杏葉(馬具)

高崎市八幡町にある観音塚古墳は、全国の古墳のなかでも指おりの巨大な石室をもっています。この石室の中から、多数の副葬品が発見されました。銅製・金銅製の鏡・鏡・鏡・馬飾などのほか、銀製品や鉄製品などの金属製品に目が引かれます。

4世紀から8世紀に及ぶ約500年間は、巨大な墳丘をもった墳墓がつくられ、古墳時代とよばれます。古墳の墳丘からは埴輪、石室からは装飾品・刀剣類・馬具類など様々な副葬品が発見されることがあり、当時の生活や技術水準を私達の目の前に示してくれます。

本県の古墳から出土した金属製品としては、観音山古墳出土品（県立歴史博物館展示）も忘れてはなりません。



● 銅承台付蓋鉢

●古代人の造型美……………塚廻り古墳出土の埴輪

- 名 称：上野塚廻り古墳出土埴輪
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：県立歴史博物館
県埋蔵文化財調査センター



●いすに腰かける盛装の男子



●復元整備された塚廻り4号古墳

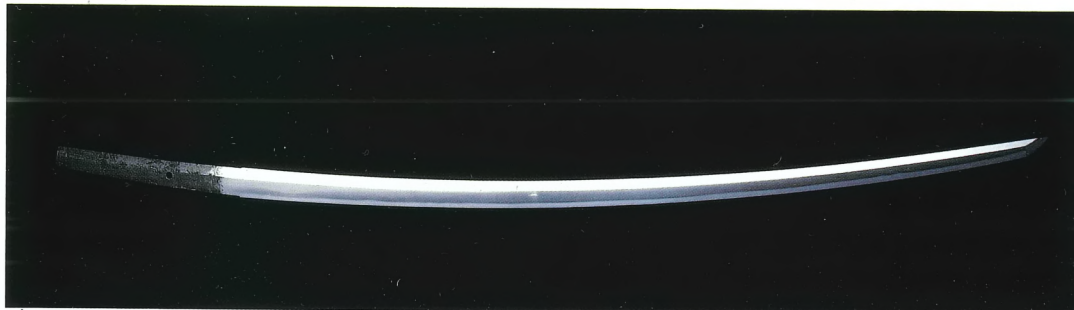
古墳からは土で造られた埴輪が発見されることがあります。墳丘のふちに並べられていた円筒埴輪、家・大刀・盾などを模した器財埴輪、馬・犬・鶏などの動物埴輪、武装する男子・着飾った女子などの人物埴輪。どれをとっても、古代の人々の造型感覚のすばらしさに驚かされます。

太田市竜舞の塚廻り古墳からは、多くの埴輪が、配列された当初の位置から発見され、見事な一幕の舞台を見るかのように、私達にせまってきます。どのようなドラマが演じられたのか、皆さんも埴輪のパantomimeから想像してみてください。

本県出土の埴輪は、質・量ともに全国屈指といえますので、東京国立博物館などにも多数展示されています。県立歴史博物館、相川考古館（伊勢崎市）などの埴輪は第1級のもので、皆さんの近くの資料館や展示室でもほほえましい埴輪に会えると思います。

● 用具の美………了戒の太刀

- 名 称：銘了戒太刀、拵こしらえ銀造沃懸地いかけじ
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：東照宮（尾島町世良田）
- 修 理：昭和56年度完了



工芸品は、ただ単に鑑賞するための美術品ではなく、使用する目的をもって作られたものです。焼物・塗物・染織品・金工品など様々な工芸品が作られてきました。

了戒は鎌倉時代に京都で製作していた刀工で、皇族貴族のなかに愛蔵するものが多かったようです。江戸時代初期、後水尾上皇が徳川家康を祀る日光の東照宮へこの太刀を奉納しましたが、寛永期に日光東照宮が大改修された際、世良田へ移築された古宮（拝殿）と共にこの地に移管されました。

繊細な細工を施した拵こしらえ（刀装品）とあいまって、優雅な雰囲気を与える宝刀です。全国に多数の東照宮が祀られました。江戸幕府が直接経営したのは日光・久能山・世良田の3カ所だけであったことを物語る貴重な作品です。



● 「了戒」の銘

● 東洋的肖像画……………頂相 ちん ぞう

- 名 称：絹本着色白崖宝生 禅師画像 はくがいぼうしょう
- 指 定：県指定重要文化財
- 所在地：泉竜寺（伊勢崎市柴町）
県立歴史博物館保管
- 修 理：昭和57年度完了

禅宗では、師弟の関係を重視する気風があり、先師の肖像画を作成し、命日などに懸けて礼拝する慣習をもっています。その肖像画は頂相といわれますが、外観ばかりでなく、その内面までも活写することが要求されるわけで、西洋の肖像画とは一味違った写実性を備えています。

頂相は、絵画だけでなく彫像に刻まれることもあり、また、禅宗以外の宗派の高僧や武人の肖像画など人物描写に大きな影響を与えました。

「白崖禅師像」は、室町時代の画僧 みんちよう 明兆の筆になり、名僧の風貌をよく伝えています。

絵画では長楽寺（尾島町）に伝世する「無準師範像」ぶじゆんしはん、「牧翁了了一像」ぼくおうりょういつ、「律台榮宗像」りつだい、妙安寺（前橋市）の「親鸞上人像」しんらん などすぐれた作品があり、彫刻では、長楽寺の「法照禅師像」ほうしやう、蓮華寺（安中市）の「榮朝禅師像」えいちょう、宝福寺（板倉町）の「性信上人像」しやうしん などがすぐれています。



● 「白崖禅師像」

● 戦国時代の一面…………南蛮絵

- 名 称：紙本着色泰西王侯図（2幅）
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：満福寺（鬼石町讓原）
県立歴史博物館保管
- 修 理：昭和50年度完了

● 紙本着色泰西王侯図



16世紀、種子島にポルトガル人が漂着して異質の宗教や文化が流入しはじめました。天正11（1583）年には画家が渡来し、近畿や九州にたてたセミナリオ（学校）で西洋絵画（油絵）の技法を伝授しました。

満福寺に伝わる泰西（ヨーロッパ）王侯図は、冠をつけた若い王族と甲冑を着けた騎士を描き、写実性豊かな優品です。西洋の王侯図の典型的な絵柄ですが、細部の描法を検討すると日本人の作品であると考えられます。

戦国時代は、天下統一をめぐって群雄が覇権をきそった時代ですが、鉄砲に象徴されるようにヨーロッパの影響もありました。なぜ鬼石町の寺にこの絵が伝えられたのかは謎です。

● 信仰の結晶……………仏像

信仰の対象である仏像は、布・木・石・銅・鉄など様々な素材を使って作られました。

- 名 称：鉄造阿弥陀如来坐像
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：善勝寺（前橋市端気町）
- 修 理：昭和52年度完了



● 鉄造阿弥陀如来坐像

善勝寺の鉄仏は、仁治4（1243）年と造られた年代がはっきりしており、鎌倉時代の東国文化の一典型といえます。貴族にとってかわった武士が、力の象徴ともいえる鉄に愛着をもっていたことの証明と思われる。

この鉄仏をよく観察すると、頭部と手は青銅で造られております。繊細な部位を流麗に表現するために最初から鉄を使わなかったものか、または、後世に取りかえられたのか、結論を出すのは難しいことです。

●信仰の結晶……………仏像

- 名 称：石造不動明王立像
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：不動寺（赤城村宮田）

鎌倉時代以後、庶民にも仏教への信仰が浸透すると、比較的造立しやすい石仏が数多く作られました。路傍で見かけることも多いはずです。

宮田の不動様は、2石を丸彫りにして腰部で接合する手法で作られた、高さが166cmほどの堂々たる石仏であり、ギリシアの石造彫刻にも劣らない迫力をもっています。建長3（1251）年、新田一族の里見氏義が製作を依頼したものです。



●石造不動明王像

- 名 称：木造阿弥陀三尊像
- 指 定：県指定重要文化財
- 所在地：光恩寺（千代田町赤岩）
- 修 理：昭和56年度完了



●木造阿弥陀三尊像

木彫仏は仏像のなかでも芸術性の高いものがたくさんあります。中尊の阿弥陀如来は坐像、両脇侍の観音と勢至の両菩薩は立像であり、鎌倉初期と推定される見事な三尊像です。製作技法としては、寄木造という、木造の各部分を接合して組立てる方法をとっています。

保存修理を施した木彫仏としては、白岩の十一面観音像（榛名町・長谷寺）、三光院の十一面観音像（沼田市）、満行寺の地藏菩薩像（安中市）、明德寺の聖観音像（月夜野町）、行沢の馬頭観音像（吾妻町）などがあります。

●くらし……………黒沢家住宅

- 名 称：旧黒沢家住宅
- 指 定：国指定重要文化財
- 所在地：多野郡上野村檜原
- 修 理：昭和56年度完了



●旧黒沢家住宅全景

江戸時代の住居は、カヤ、ワラ、板などで屋根をふいた家が一般的でした。

黒沢家は、代々名主をつとめた家柄でしたから、一般の家よりは規模が大きいということがあります。質素な山村の生活がしのべれます。屋根は栗の板で葺かれ、動かないように、近くを流れる神流川の河原石がピッシリと置かれています。

興味をひかれるのは、入口が3カ所もあることです。幕府の役人などを迎える「式台」、村役人などのための「村玄関」、日常使う「トボウグチ」とあり、身分制度のきびしかった江戸時代がしのべれます。

そのほか、身分の高い人々の使用する部屋、現代とはまったく違う「風呂場」、漬物などを貯蔵した石室（地下室）などは見落せません。

本県には、このほかにも、生方家(沼田市沼田公園)、茂木家(富岡市宮崎公園)、阿久沢家(宮城村柏倉)、富沢家(中之条町大道)、戸部家(水上町湯原)などの重要文化財の民家があります。それぞれ特色がありますので、比べてみるのも面白いでしょう。

●神を祭る………雷電神社

- 名称：雷電神社社殿
- 指定：県指定重要文化財
- 所在地：邑楽郡板倉町板倉
- 修理：平成元年3月終了



●雷電神社社殿

「雷とカラッ風」に象徴される本県には、雷神を祭る神社がたくさんあります。そのなかでも中心的な雷電神社が、板倉様と崇められている板倉町の雷電神社です。

現在の社殿は、今から160年ほど前の江戸時代の天保期に造られました。この頃の神社建築では、建物を様々な彫刻で飾っております。雷電神社の彫刻は、当時活躍していた花輪（勢多郡東村）の彫物師がつくったものです。今度の修理で創建当初の美しさが再現されました。

なお、境内には、国の重要文化財に指定されている末社もあり、ぜひ一度は訪れてみたい神社です。

県内の代表的な神社建築には、貫前神社（富岡市一ノ宮）、玉村八幡宮（玉村町下新田）、妙義神社（妙義町妙義）、東照宮（尾島町世良田）などがあります。



●復元された創建当時の彩色

● お寺……………長楽寺

- 名称：長楽寺三仏堂ほか
- 指定：県指定重要文化財
- 所在地：新田郡尾島町世良田
- 修理：昭和59年度完了



● 三仏堂



● 太鼓門

長楽寺は、新田氏ゆかりの寺として名高く、国指定4件・県指定18件を所有する、文化財の宝庫といえます。

三仏堂は、長楽寺の中心的な建物で、江戸時代の慶安4（1651）年に建造され、安定感のある大型の仏堂建築です。中には、釈迦如来・阿弥陀如来・弥勒菩薩の三尊仏が安置されています。

長楽寺の近隣には、東照宮や東毛歴史資料館があり、1日を楽しくすごすのには絶好の歴史的環境が形成されております。

本県の寺院建築を見るには、薬師堂（中之条町四万日向見）、泰寧寺（新治村須川）、水沢寺（伊香保町水沢）、さざえ堂（太田市東今泉）などが良いでしょう。

●西洋文化の影響……桐生明治館

- 名称：旧群馬県衛生所
- 指定：国指定重要文化財
- 所在地：桐生市相生町二丁目
- 修理：昭和60年度完了

●旧群馬県衛生所（現在は桐生明治館）



明治時代になると、日本は世界の国々と交流するようになり、近代国家としての体制を整えて行きます。ヨーロッパやアメリカの先進国家の文化を取り入れる「文明開化」をスローガンとして、学問・芸術の分野はもとより、衣食住をはじめとする生活の全般にわたって、西洋の影響が急速に浸透して行きました。

桐生明治館は、明治11（1878）年に建てられたものですが、設計も工事も日本人がおこなっています。木材の組み方、建物内外のデザインや装飾、内部の建具や調度に至るまで、西洋風の意匠を取入れており、洋風建築と言われます。明治の早い時期に、驚かされる日本人の対応ぶりです。

桐生明治館は、初め、群馬県衛生所として前橋に建てられましたが、昭和3（1928）年に現在地に移築され、相生村の役場として使われてきました。現在では、当初の姿に復元され、明治の雰囲気を感じることができます。

洋風建築では、宣教師館（前橋市岩神町・共愛学園）、吾妻第三小学校（中之条町）、蚕糸試験所事務棟（前橋市・敷島公園）などが、いずれも見事なものです。

● 庶民の文化………民俗文化財

- 名 称：吾妻のお茶講習俗
- 指 定：県指定無形民俗文化財
- 所在地：中之条町五反田
- 保 護：昭和60年竣工



● お茶を飲み当てる子供達

中之条町五反田の白久保地区で、ひときわ目立つカヤ葺きの民家が「お茶講の家」です。この地区では、昔から天神様の宵祭り（2月24日）に、村の子供達を集めてお茶講が楽しまれてきました。出されるお茶を子供達が飲み当てる、ごほうびに菓子や果物が配られるという遊びですが、遠く室町時代に貴族たちに流行していた「闘茶」の流れをくむものです。なぜ、こんな山里の習俗として残っているのか、いまもってわかりません。

子供達の明るい笑顔を見ていると、全国でこゝだけという、この行事がいつまでも続くことを祈らずにいられません。町に話せばだれでも体験できますので、一度出向いてみてはどうですか。

— お茶講で使うお茶 —

お茶講のお茶は4種類です。原料のシブ茶、甘茶、チンピ（みかんの皮を干したものを石臼でゴリゴリ挽いて粉にしたものを、色々な割合にまぜてつくります。

●自然も文化遺産……………樹木の保護

- 名 称：横室の大カヤ
- 指 定：国指定天然記念物
- 所在地：富士見村横室
- 修 理：昭和62年度完了



●横室の大カヤ

人間の営みを何百年にもわたって見つめてきた巨樹名木は、先祖も大切にしてきたかけ替えのない文化遺産です。

横室の大カヤは、目通り幹囲8.4m、根回り13.5m、樹高25m程もあり、カヤの木としては日本一の風格を誇っています。

しかし、最近の自然環境の悪化で樹勢が弱まりましたので、樹木の診断をし、施肥・消毒・枝打ちなどを行い、副木をしてやるなど環境整備を実施した結果、ふたたび樹勢を取りもどしております。

自然の豊かな本県には、多くの巨樹巨木があり、また、貴重な動物や植物もありますので、毎年数多くの保護対策を講じています。目が離せない文化財といえましよう。

県内巨木ベスト10

順位	巨樹の通称	幹周(m)	所在地
1	浄蔵寺の大イチョウ	11.00	尾島町
2	原町の大ケヤキ	10.00	吾妻町原町
	五郎の大スギ	10.00	松井田町
4	矢立てスギ	9.77	榛名町榛名山
5	親都神社の大ケヤキ	9.70	中之条町五反田
	荘田神社の大イチョウ	9.70	沼田市井戸上町
7	川田神社の大ケヤキ	9.50	沼田市下川田町
8	藍園墓地の大ケヤキ	8.70	渋川市上郷
9	雲昌寺の大ケヤキ	8.50	昭和村川額
	井野神社の大イチョウ	8.50	高崎市井野
	馬かくれスギ	8.50	沼田市上発知
	丸沼・保安林内のカツラ	8.50	片品村丸沼

埋蔵文化財の保護

文化財の種類 文化財は、私たちのまわりには様々なかたちで、色々の種類のもが残されています。建造物や絵画・彫刻のように私たちが直接目で見ることのできる『有形文化財』もあれば、民謡や村祭りの踊りのように人々の生活のなかで伝えられて来た『無形文化財』もあり、むかしの人々の残した遺跡や旧跡のように土地とかかわりをもつ『史跡』『名勝』もあります。また、めずらしい自然界の景観や現象・数が少なくなってしまい特定の地にだけしか生育・生息しない動物・植物を対象とした『天然記念物』などがあります。

文化財の大切さ こうした文化財は、年月の経過とともにいたんだり壊れたりしてなくなってしまい、なかには土の中に埋没してしまったものもあり、私たちの目にふれることのできるものは、ほんのわずかなものにしかすぎません。

文化財を大切にすることの理由がおわかりいただけたと思います。

埋蔵文化財とは 土のなかに埋もれている文化財は『埋蔵文化財』とよばれています。これらの埋蔵文化財は、埋もれている間はほとんど気付かずに眠った状態にありますが、一たび、耕作や土木工事などで土地を掘り起すようなことがあると、思いがけない貴重な遺跡や遺物の発見というかたちで出現します。

岩宿遺跡のむかしから、原始・古代文化が栄えた群馬県地域では、たくさんの遺跡が広く分布しており、私たちの村や町の生いたちを物語る住居跡や古墳、城跡、田畑や用水の跡、製鉄ややきものの生産跡などが地中に沢山保存されています。

埋蔵文化財の保存 これらの埋蔵文化財のうち、内容がわかっていて貴重なものや新たに見つかった重要なものは史跡に指定し保存をはかっています。それらのなかには高崎市観音山古墳のように史跡公園として整備され、また、上野国分寺跡のように整備中のものもあります。できるだけ、原形を保ち、それを後世に伝えるとともに、地域の学習や憩いの場として、多くの人々に親しんでもらう様になっています。

埋蔵文化財の発掘 しかし、すべての埋蔵文化財を保存することは、大変むずかしい問題です。私たちの生活を豊かにする開発事業は大切ですが、だからといって文化財が無秩序に壊されて失なわれてしまうことは、いかにも知恵のはたらかないことだからです。かけがえのない貴重なものは万難を排して、それを保護しなければなりません。元来、文化財は国民みんなの財産として、国や県、市・町・村の責任ばかりでなく、国民一人一人が、それぞれの立場で守っていく責任があります。

そこで、埋蔵文化財が開発事業などによって失なわれるようなことが生じた場合、開発が優先してどうしても保存できないものについては事前に発掘調査をして、現状で保存できないものを写真や図面などで記録保存することになっています。それらは報告書として刊行され、調査された遺物類なども博物館や資料館に保存され、研究者ばかりではなく、多くの人々が利用できるようにしています。そのため、県内各地で、埋蔵文化財の発掘調査が進められています。

埋蔵文化財の活用 開発などであらわれた埋蔵文化財は、まずその調査が一段落した時に現地説明会を開き、地元の人や歴史に興味のある人たちに、どんな遺跡がでてきたのかを見てもらいます。この後、残すものについては標識や説明板を立てその場所に来た人が遺跡についてよくわかるようにします。

またやむを得ずこわしてしまう遺跡は、その写真や図面などを入れたわかりやすい本をつくり、県内の各地の図書館等に置き、誰にでも見られるようにすると共に、土器や石器などの遺物は県や地元の博物館で展示しています。



みんなの文化財

発行 群馬県教育委員会

編集 同 文化財保護課

印刷 平成元年 3 月31日

印刷・製本 上毎印刷株式会社